

日刊 勤労千葉

81.3.26
No.699

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二三三六・公衆(0)三三(22)七二〇七

京成の仲間の闘いを断固支援しよう

京成資本の大量首切り、賃金抑制、労働強化許すな！ 「千葉県共」3・24 総対話集会」を開催

県労連・県交運協・県私鉄の三者が中心となって昨年の八〇春闘の中で結成された「京成労組支援千葉県共闘会議」主催の「京成労組支援総対話集会」が三月二十四日、午後二時より千葉県農業会館で各単産、利用者代表など約二五〇名が参加して開催された。集会は、主催者を代表しての井原県労連議長のおいさつ、京成労組杉崎副委員長の情勢報告をはじめ、私鉄総連、私鉄関東地連、社会党県本部、県交運協、利用者代表などがつぎつぎと立って「京成労組の仲間の闘いを支援しよう」と訴え、最後に「県民への訴え」を満場の拍手で採択し、さらに集会終了後の各駅頭での宣伝をはじめとする支援行動を決定し十六時過ぎ解散した。



労働者に全面的犠牲を強いる京成資本

昨年八月、会社側は、京成労組に対し「会社再建」の名の下につきのよう大合理化を提案した。(1)五六二名の人員削減(2)首切りを本年三月三十一日までに実施する。(2)賃上げについては、四年間、毎年三・五%とする。(3)臨時給(賞与)については、四年間、昨年と同額に据え置く。(4)労働協約を改悪し、配転その他人事協議事項を廃止する。

さらに昨年十一月に至り、二六・二%もの大巾運賃値上げを申請したのである。この京成資本の大合理化攻撃は、七七年(人減らし)、七九年(人減らし)、八〇年(臨時給削減)とあいつぐ合理化攻撃と軌を一にするものである。

そもそも京成資本は、田中内閣当時、高度成長政策・列島改造計画の一環を担って、土地投機や膨大な借金経営を推進してきた結果、七九年度一七四億円にのぼる累積赤字を計上するに至ったのである。

こうした京成資本のずさん経営とその結果である膨大な累積赤字解消(会社再建の名のもとに全面的に労働者に転嫁しようとする大合理化攻撃)に対し、京成労組の仲間は、「今日の事態を招いた全

ての責任は経営者側にある」として、組合員の生活と職場を守るため闘い抜いている。そして来る三月二十九日(日)には、正午までの半日ストライキに決起しようとしている。

京成労働者への攻撃は、 国鉄三五万人体制攻撃と同一のもの

京成労働者への大量首切り・賃金固定化・労働協約改悪などの大合理化攻撃は、京成資本による労働者一人一人の分断支配の強化と労働組合の弱体化を狙うものである。

われわれは、この攻撃を大合理化と国鉄労働運動の解体を狙う国鉄三五万人体制攻撃と同一のものであるととらえ、京成の仲間の闘いを断固支持し、連帯して闘い抜かなければならない。支配階級の軍事大國化・改憲攻撃の強まりと、労働運動の産報化・右傾化が一層拍車をかけて進む中で、労働者大衆への反動と搾取と収奪の攻撃が、より強まることは必至である。

われわれに、「闘わなければ、生活も職場も権利も守れない」ことをはっきりと示している。わが勤労千葉一三〇〇組合員が総決起して闘い抜いた五日間の決戦ストライキは、八一春闘を前にして確実に多くの労働者人民をふるいたたせている。

闘いに立ち上った京成労働者を支援し、共に闘おう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ。

3・25 東京高裁の棄却決定を徹底弾劾する！

狭山差別裁判無実の石川雄氏への再審棄却(80之7)異議申し立てに対する